

(7) 球根類

○ ユリ

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
ウイルス病 (CMV、LMOV、 ASGV、LSV、 TMV、TBV)	①繁殖には健全株の母球を用いる。 ②発病株は早めに抜き取り、適切に処分する。 ③発病株を切った刃物などは、消毒(火炎など)してから使用する。 ④目合い1mm以下の防虫ネットにより、アブラムシ類の飛来侵入を防止する。 【参考事項】 保毒球根による伝染や汁液伝染のほか、CMV、LMOV、LSV、TBVはアブラムシ類の媒介により伝染する。	①アブラムシ類に適用のある農薬を処理する。 (例) アセタミプリド水溶剤 (モスピラン顆粒水溶剤) イミダクロプリド粒剤 (アドマイヤー1粒剤、ブルースカイ粒剤) クロチアニジン水溶剤 (ダントツ水溶剤、ベニカ水溶剤) ジノテフラン粒剤 (アルパリン粒剤、スタークル粒剤、スターガード粒剤) ニテンピラム水溶剤 (ベストガード水溶剤)
葉枯病 (Botrytis)	①日中は十分な換気を行ったり、暖房機を利用するなどして多湿を避ける。 ②密植を避けたり、老葉を除去するなどして通風を確保する。 ③発病葉や発病花は直ちに除去して、適切に処分する。 【参考事項】 菌の生育適温は20℃前後で、分生子の形成は16℃前後が好適である。梅雨期と秋雨期に発病しやすい。	①発病初期から農薬を散布する。 (例) ペンチオピラド水和剤 (アフェットフロアブル) チオファネートメチル水和剤 (トップジンM水和剤) メパニピリム水和剤 (フルピカフロアブル) TPN水和剤 (ダコニール1000)

○ グラジオラス

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
首腐病 (細菌)	①連作はできる限り避け、排水の良いほ場を利用する。 ②種球は無病のものを選ぶ。 ③発病株は、速やかに除去して適切に処分する。 【参考事項】 はじめは、地際付近の葉鞘に黒褐色の斑点があらわれる。 球根にはへこんだ黒褐色、円形の病斑があらわれる。	①植付け前に土壌消毒を行う。 (例) ダゾメット粉粒剤 (ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤)
グラジオラス アザミウマ	①発生地から採取した球根の植付けはできる限り避ける。 ②前作の茎葉や残さを除去し、適切に処分する。 【参考事項】 本種は、球根にも寄生する。	①発生初期から農薬を処理する。 (例) アセタミプリド水溶剤 (モスピラン顆粒水溶剤) トルフェンピラド水和剤 (ハチハチフロアブル) プロチオホス乳剤 (トクチオン乳剤) ベンフラカルブ粒剤 (オンコル粒剤5) (生育期に株元散布) (以上、アザミウマ類)

○ 球根類全般

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
球根腐敗病 (Fusarium) 緑かび病・青 かび病 (Penicillium)	①植付け時、種球を厳選して被害球を使用しない。 ②連作を避け、無病地で栽培する。 ③排水を良好にする。 ④窒素過多を避ける。 ⑤発病株は速やかに除去して適切に処分する。 ⑥掘取りは晴天が続いた日に傷つけないように行い、掘りとった種球は陰干しして通気性の良い場所に貯蔵する。	①土壌消毒を行う。 (例) ダゾメット粉粒剤 (ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤) (球根腐敗病) ②下記農薬で球根掘取り時又は植付け時に浸漬処理する。 (例) キャプタン水和剤 (オゾンサイド水和剤80) (チューリップ (球根) 青かび病、ゆり腐敗病)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
ネダニ	<p>①連作を避け、寄生の少ない作物（ウリ、ダイズ、ショウガ、ヤマイモなど）と輪作する。</p> <p>②球根貯蔵場所の通風を良くし、高温を避ける。</p> <p>③ロビンネダニは45℃、10分以上処理すると死滅するが、球根の温湯処理を実施する際は、高温による障害に注意する。</p>	<p>①下記農薬で植付け前に球根を浸漬処理する。 (例) フルキサメタミド乳剤（グレーシア乳剤）（ユリ）</p> <p>②定植時に農薬を植穴土壌混和する。 (例) ジメトエート粒剤（ジメトエート粒剤）（ユリ、チューリップ）</p>
<p>【参考事項】 年に十数回の世代を繰り返す。元来は地中で生息するが、収穫終了後掘りあげられた球根に付着して貯蔵中も加害、繁殖を続ける。</p>		